

つねお じじいへ

ラジオネーム：孫3号

じじい。今年も高校野球のシーズンがやってくるよ。今年はどうな展開が待っているんだろうね。

「甲子園に一緒に行かないか」じじいが私を誘った20年前の夏。小学校1年だった私は「甲子園」がどこなのか、何をするといいのかなのか、全くわからなかったけれど、じじいと一緒に出掛けられるじじいが嬉しくて「うんー行くー!」と答えたね。

「着いてきてくれるのはお前だけだ」と嬉しそうなじじい。後から聞いてみると、ばーちゃんもママも二人のお姉ちゃんも、じじいの誘い、断ったんだってね。みんな甲子園がどういところなのかをすでに知っていて、「野球わからないから、私行かない」って。するとじじいは、私にターゲットを変えて、私に高校野球がどういうものなのかを教えるんだと意気込んでいたみたい。

じじいと出かけた日。甲子園までの長い移動時間に、「まだ着かないの?」とか「もう疲れた」とか文句ばっかりだった。甲子園に着いても「暑い」「暑くない」「おなかすいた」「のびかいた」と数々の文句。じじいだとみんな迷惑かけちゃったと思う。

でもね、じじい。野球観戦はすっごく楽しみたい、感動したいよ。ちゃんと覚えてるよ。球を打つ「カキーン」という音が楽しかった。

私もやってみたくなくなった。

そうともなれば、甲子園から帰ってへると、じじが私を連れて行ったのは、スポーツ用品店。子ども用のグローブとバットとボールを買って、毎日のように家の庭でじじと遊んでいたね。

楽しくって、友達に「遊ばない?」「と誘われても、「じじと野球するから」って真っ先に家に帰っていたことも覚えている。

ただ、進級する度に、学校が忙しくなり、他の習い事も忙しくなり、じじに買ってもらった野球道具はクローゼットで眠る日々。それに呼応するかのよつに、じじの体力もなくなっていく……

「じじ、寂しかったんじゃないかな」ってすごく後悔してる。

それに、お姉ちゃんも嫁いだり、私も進学で家を離れたりと、寂しは増っていくんじゃないかな……

じじの寂しさをすくじでも紛らわす方法はなかったものか、どうしてあげたらよかったんだろう。

じじ。じめんね。

今年も一緒に、野球観戦しよう！ 場所こそは違っても、

天国から見ているんだよね。

／ 栄冠は君に輝く

く ノボリア合宿園